

★本記事の読み上げ動画を作成しました！

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひ活用ください！
動画はこちら→https://youtu.be/yV2TyAzhU_Q?si=6L9ATO-aO1XjktT6&t=1



過去の動画はこちら



連載

★学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に取り組むクラブ★

NPO法人まほろばクラブ南国
高知県南国市

学校運動部活動を巡っては、少子化による生徒数の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5(2023)年から令和7(2025)年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

1

クラブ概要

平成23(2011)年1月に南国市スポーツ協会、南国市スポーツ推進委員連絡協議会、南国市文化とスポーツ振興NPOのスポーツ関連団体から設立準備委員を選出して、まほろばクラブ南国を立ち上げました。その後、同年12月に活動の充実による社会的責任を果たすべく、特定非営利活動法人の設立。そして、平成24(2012)年4月より南国市スポーツ施設指定管理者を受託し、今年で13年目となります。

まほろばクラブ南国の理念は、次の通りです。

- ①笑顔あふれる生涯スポーツ(いつでも誰でも気軽に参加できるプログラムの提供。健康増進・体力維持のお手伝い。継続的なサークル活動)
- ②感性豊かな子どもの体力づくり(スポーツ好きになるプログラムの提供。運動能力の向上をめざす学校週5日制に対応したプログラムの提供)
- ③健康づくり、仲間づくり、町づくり(クラブを通じて健康づくり・仲間づくり・町づくりを推進。憩いの場としての活用。健康、仲間、町をテーマとしたイベントの開催)

コロナ禍による影響で、1,200人いた会員が減少したため、現在会員数は911人(令和6年3月末現在)です。そこで、自主事業サークル53サークルのほか、高齢者健康増進事業・生活習慣病予防事業・文化講座事業などの委託事業の実施や、異業種を結ぶ地域住民の福祉の増進を目的に地域のプラットフォームの構築に励んでいます。

2

部活動コーディネーターの企画で 連携・移行が前進

中学校への聞き取り調査で明らかになったこと

南国市は、教育要覧の社会体育生涯スポーツの充実をめざし、ライフスタイルに合わせてスポーツを楽しみ、健康づくりや社交の場として、いつでもどこでも、誰もが気軽にスポーツに親しみ、参加できる生涯スポーツ社会の実現に向け活動しています。南国市の休日学校部活動の地域連携・移行は、学校教育課が主導で動いており、常に総合型クラブとスポーツの振興普及や推進計画を共有してきました。そして、総合型クラブが部活動地域移行の受け皿となることをきっかけに、南国市の社会体育生涯スポーツ環境の整備にもつながることが期待されます。

また、南国市では運動部活動改革推進委員会を設置し、部活動の取り組み状況や成果の検証を行っています。それとともに、部活動の意義の確認や、教員の運動部活動の運営の適正化および生徒の運動部活動の充実を通して、持続可能かつ南国市の「人づくり」に向かう運動部活動になるよう、まほろばクラブ南国も総合的な支援を目的に取り組みに参加しています。

市行政が配置した部活動コーディネーターが南国市内4つの中学校に、全校生徒数、部活動加入者の状況などを聞き取り調査したところ、クラブが管理する施設の校区内にある香南中学校が、部活動の地域移行を検討していると学校教育課から報告がありました。チームの存続が危機状態である2競技(女子バレーボール・女子バスケットボール)を地域移行することに加えて、スポーツ基本法にもあるスポーツを行う目的が多様化することも含め、多種目型クラブをモデル校独自の取り組みとして設定しました。令和6(2024)年度スタート時には、女子バレーボールチームに、チーム編成が厳しくなった南国市北部に位置する北陵中学校からも生徒が加わり、仲間が増えたことでチーム力の強化が図れる体制ができました。平日はそれぞれの学校で練習をし、週末に合流する練習計画で、夏休みなどはスポーツ振興くじの助成金を使用して購入したクラブ所有のバスを活用して、両校の体育館やクラブが管理している施設も使い、子どもたちが主体的・自発的に楽しめる練習環境を部活動コーディネーターがサポートしています。

指導者は、香南中学校部活動指導員が監督、北陵中学校部活動指導員がコーチの役目を担いサポートしていただいております。指導者への謝金は部活動指導員として行政からお支払いいただいております。国が都道府県・市区町村に委託して実施している実証事業期間中は、活動に必要な用具やユニホームにかかる費用など、義務教育過程の子どもたちに経済的負担をかけないように、「クラブは何を工夫できるのか」など、課題の洗い出しをしています。そして、この改革が子どもたちにとっても、地域にとっても「よかった」と言われるように取り組んでいくことが重要であると認識しました。

見えてきた取り組み方の今後の課題

連携団体として、南国市スポーツ協会、南国市スポーツ推進委員連絡協議会、高知大学地域協働学部まほろばクラブ南国実習班(学生)、高知工科大学女子バレーボール部など、さまざまな団体にサポートいただき、足りないことを補い協力していただいております。特に、新たな試みとして多様目型クラブの活動には、スポーツを通じて子どもたちが地域とつながり、地域活性化に貢献する場を共につくる人を育て、健康づくり、仲間づくり、町づくりを学ぶ機会をコーディネーターが企画しています。

残念なことは、女子バスケットボールを中学校から引き継ぎましたが、校区内の小学校にミニバスチームの活動をしているところがありませんでした。近隣他校にも募集をしましたが、新入部員の加入がなく、さらに6月末で3年生が引退したため活動ができなくなり、中学生から始める部員確保の厳しさを痛感しました。しかし、この地域で部活動コーディネーターが企画した体験会などでヒアリングをした結果、「小学生を対象としたバスケットボール体験会の必要性」と、「週1回から週3回程度の活動を望んでいる子どもたちの声」が意外とありました。活動のあり方と楽しみ方をどう考えていくのかも検討していく必要があり、多様な時代に遅れないようにクラブの指導者確保と、取り組み方が今後の課題かと感じています。

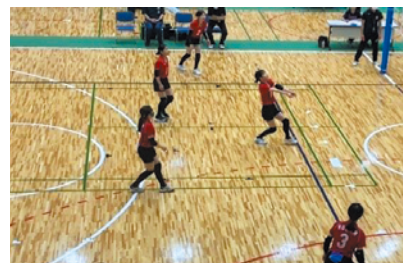
3

続けられる環境整備ができ 学びの多い時間となる

女子バレーボールは地域移行することで、他校でチームが組めない状態を回避することができ、やりたいスポーツを続けられる環境整備ができました。クラブチームとして県大会地区予選に初出場しましたが、仲間が増えることにより一人ひとりのプレーにもゆとりが見られ、伸び伸びしたプレーに、子どもたちも、保護者も、クラブも学びの多い時間でした。今後は、さらに子どもたちが主体となれるように、スポーツを通じてどのように成長していくのか、指導者と保護者、そしてクラブがどうサポートしていくのかを明確にし、情報共有することが大切であると大会を通して感じました。



初の県大会地区予選に出場し、少し緊張気味



伸び伸びとプレーを楽しむ選手たち



バレーボール部は2勝1敗、高知県大会に出場が決定した

多様目型クラブは、現状2名の生徒とビジター参加者による活動で、まだまだ安定した活動ができる人数ではありません。しかし、コーディネーターが部活動指導員となり、モルックやニュースポーツを取り込み、連携団体の大学生とスポーツ鬼ごっこをしたり、サッカー部と一緒にウォーキングサッカーを利き足でない足で楽しんだりしています。このような勝利至上主義でない楽しみ方の実践によって、帰宅予定の子どもたちも参加するなど、多様なニーズにどのような仕組みがあると気軽に参加しやすいのか、今後が楽しみな活動になっています。



多様目型クラブでは、練習前に遊び的要素を入れたウォーミングアップを実施



多様目型クラブで行うウォーキングサッカーでは、サッカー部と一緒にプレーすることもある



雨など天候が悪い日は、学校の教室で活動を行っている

4

子どもから大人まで自分に合ったレベルでスポーツを楽しめるクラブづくりが目標

今後は、子どもたちも、指導者も、保護者も、クラブも、おのものが成長に必要なことは「知り、楽しみ、学ぶ」機会を重ね、自主的・自発的にスポーツを楽しめる環境を生涯スポーツとして整備をすること、さらに、個々の楽しみ方に出合えるような仕組みを考え、子どもから大人までが自分に合ったレベルでスポーツが楽しめる・選べる地域クラブづくりが目標です。

その目標を達成するためには、大学生から学ぶ交流(練習)や、指導者講習会、保護者講習会、チーム力向上も含めた合宿などを計画すること、そして、義務教育課程後の自立に向け、人づくりがスポーツのあり方や地域・社会を変え、スポーツは世界共通の文化であることを次世代の子どもたちに伝えていくことが、私たち大人の、そしてクラブの責務だと肝に銘じたいと思います。

ただ、今後の課題として総合型クラブが常に考えているのは「ひと・もの・かね」です。これから種目数が増え、コーディネーターが携わる業務も増えていきます。子どもたちがよりよい環境でスポーツを楽しむ・学ぶためには、支える側の環境を改革改善していくことも重要です。持続継続可能な取り組みを築き上げるためには、官民公私の関係と、行政と地域クラブの立ち位置をしっかりと整理すること。そして、それは子どもたちがやりたいスポーツができる公的なサービス(誰もが等しい条件で参加できる)を提供できる総合型クラブの役割でもあります。活動場所などの関係から、わが町の子どもたちの環境は、行政による政策的な支えが特に必要であると、取り組みば取り組むほど感じています。

NPO法人まほろばクラブ南国 理事長 武市光徳

クラブプロフィール

- 設立年月日** 平成23(2011)年1月27日(平成23(2011)年12月9日法人登記)
- 所在地** 高知県南国市前浜1344-3 南国市立スポーツセンター内
- 運営** 会員数:911名(令和6年3月現在)、予算規模82,000千円(令和5年度)
- 特徴** 社会教育と生涯学習を組み合わせたプログラムが特徴で、指定管理施設を福祉の増進を目的に多種目・多世代・多志向で住民参加型の町づくりを進めております。市スポーツ協会、スポーツ推進委員連絡協議会が設立準備から関わり、横のつながりを絶やさず、「みんな〜で」を、キャッチフレーズに笑顔あふれるクラブが特徴です。
- 連絡先** 〒783-0094 住所:高知県南国市前浜1344-3
TEL:088-865-8015 FAX:088-865-8016
HP:<http://www.mahoroba-nankoku.com>
E-mail:m.takechi@mahoroba-nankoku.com